

今回は、生成AI(人工知能)についてお伝えします。

生成AIについて

生成AIとは

生成AIとは、AIを用いてクリエイティブな成果物を生み出すことができるのが特徴的で、生成できるものは文章や楽曲、画像、動画、プログラムのコードなど多岐にわたります。生成AIはAIが自ら答えを探して学習する「ディープラーニング」を用いて構築された機械学習モデルです。「AIが人間のようにクリエイティブな成果物を生み出せる」点が従来のAIとは異なっております。

生成AIの種類

生成AIには、テキストや画像、動画、音声生成など様々な種類があります。それぞれの性質に適した活用法を選択することで、これまで人間の手で行っていた作業を効率化したり、思いつかなかったアイデアを形にしたりすることが可能になります。

テキスト生成AI	テキストボックスに質問を入力すると、その内容を解析して、自動的にテキストを生成するシステムで「ChatGPT」や「Bard」が該当。これを活用すると、長文の要約やキャッチコピーのアイデア創出、プログラミングのコード生成など様々な作業を自動化できます。
画像生成AI	テキストを入力すると、その内容に応じてオリジナル画像を生成するシステムで、「Stable Diffusion」「Midjourney」などが有名。これを活用すると、Webサイト用の素材を簡単に生成して、作業時間を短縮したり、新しいアイデア創出の参考にしたりすることができます。
動画再生AI	AIの中でも開発の難易度が高いといわれていますが、Runway社から「Gen-2」と呼ばれる動画生成AIが登場しており、クオリティの高い動画を生成できるようになっています。
音声生成AI	音声データを入力すると、その音声の特徴を学習し新しい音声データを生成できるものです。例えば、Microsoft社が開発した「VALL-E」は、音声サンプルを入力するだけで人間の声を高精度で学習し忠実に再現できます。

生成AIを活用するメリット

コスト削減と自動化	生成AIを使うことで、一部の創造的なタスクを自動化できます。例えば、記事を自動的に生成により、担当者の労力を節約できます。また、デザインや製品開発のプロセスを効率化することで、生産性を向上させコストを削減できます。
新しいアイデアの創出	新しいデザインや音楽、映像を自動的に生成することができます。これにより、企業は迅速かつ効率的に多様なアイデアを生み出すことができます。
顧客との関係強化	ユーザの好みやデータを学習し、個別に適したコンテンツや製品を生成することができます。これにより、企業と顧客の信頼関係を高め、より良いユーザー指向のサービスを提供できます。
早期のプロトタイプ作成	新しい製品やデザインのアイデアを素早く試すことができます。例えば、異なるデザインのバリエーションを自動的に生成し、最適なものを選ぶことができます。これにより、開発プロセスを迅速化しコストを削減できます。

生成AIを利用する注意点

いくつかの注意点がありますが、重要な点は以下です。

情報の信頼性	生成AIは過去のデータから学習した内容を元に文章や情報を生成しますが、必ずしも正確な情報とはかぎりません。生成された情報の信頼性を確認し、疑わしい情報には慎重に対処することが重要です。
プライバシーと個人情報	生成AIには個人情報や機密情報を含めないように注意しましょう。生成された文章やデータには、意図しない情報が含まれる可能性があります。
人間の監視と修正	生成AIは完璧ではなく、時に誤った情報や不適切な内容を生成することがあります。生成結果を常に人間が監視し、必要に応じて修正や調整を行うことが重要です。
著作権と知的財産	生成された文章やコンテンツが著作権や知的財産権を侵害しないように気を付ける必要があります。他人の作品を無断で使用することは法的な問題を引き起こす可能性があります。

～ まとめ ～

生成AIは、従来のAIとは異なり自ら学習を重ねて新たなコンテンツを生成できる点が特徴的です。この性質を利用することで、これまでは難しかった「0から1を生み出す」作業が可能になります。生成AIには、テキスト生成や画像生成など様々な種類があります。ビジネスシーンに活用することで業務効率化を図ったり、クリエイティブな作業をサポートしてくれたり多くのメリットがあります。便利なツールですが、まだ登場して月日が経過していない技術であることから、事実の真偽性や著作権問題、セキュリティ上の懸念、サイバー攻撃への悪用など懸念事項も数多く抱えています。「やって良いこと」と「やってはいけないこと」を正しく把握し安全に利用しましょう。